

ウクライナの医師達 JAMA April 12, 2022(Medical News)

「僻地で世界最先端」西伊豆健育会病院 仲田和正

Physicians in Ukraine: Caring for Patients in the Middle of a War

Rita Rubin, MA

JAMA の 4 月 12 日号にウクライナの医療の現況のニュースがありました。要約です。

.....

ウクライナ、Lviv の西ウクライナ小児医学センターの小児腫瘍専門医 Roman Kizyma はロシア軍侵攻以来、睡眠時間以外、かつて経験したことのない業務に没頭している。骨髄移植を受けたばかりの小児を 560 km 離れた激戦地から受け入れたり、普段の 3 倍の数の小児がん患者の受け入れ、重症小児のヨーロッパ全域への転送である。しかしこれは侵略者に勝ちウクライナの未来への貢献と考えて腹をくくっている (determined)。

Kizyma は白衣を野戦服 (army fatigues) に代えることもできた。

ウクライナの医師達は全員が軍士官 (army officer) または予備役 (reservist) である。戦場で役に立つ外傷外科医、麻酔科医達は既に召集された。彼等も準備はできている。彼等は練達の狙撃手ではなく腫瘍専門医なのだ。

特にウクライナ東部では医療施設は破壊され、医療関係者が犠牲になっている。

マリウプールでは小児産科病院が破壊された。小児麻酔科医の Marina Kalabina はキーウ近郊で負傷した甥を自家用車で病院へ搬送中に殺害された。

国際赤十字によると、国際人道法 (international humanitarian law) 25 条では

「医療に携わる医療関係者はどんな場合でも敬意を払われ守られなければならない」とされる。

多くの女医が志願して負傷者や輸血ステーションで働いている。

キーウ近郊の臨床検査センターも破壊された。センター長の Oksana Sulaieva は同僚 30 人、その家族たちとキーウから西部の Lviv へと 14 時間かけて避難、そこで患者と医師達が必要とする診断のためラボを立ち上げた。

戦争前、ウクライナ全土で 2,000 人の小児が、がん治療を受けていた。小児がん患者は、「弱者の中の最弱者 (the most vulnerable of the most vulnerable)」である。

このような状況で最善のケアはできない。400 人の小児がん患者がヨーロッパ全域 (ドイツ、イタリア、スペイン等) に転送された。

米国テネシー州メンフィスの St. Jude Children's Research Hospital 副院長もいつでも移送可能と申し出ている。

搬送は現在治療中の患者のみにとどまる。また祖父母、兄弟はウクライナに留まらざるを得ず、両親の仕事もあり小児の転送は容易ではない。また 18 歳から 60 歳の男性は召集に備えウクライナを出ることはできない。

ウクライナ東部の小児がん患者、骨髄移植を受けた患者は一旦、Kizyma の病院に搬入して安定化させた後、80 km離れたポーランド国境へ移動させている。
骨髄移植患者をこのように移送することは生存チャンスを脅かすものである。
キーウ、ハルキウ、その他ウクライナ南部の大都市の医師、ナース達が志願して Kizyma の病院で働いている。子供達は治療されていた病院の顔見知りを目にして安堵している。

戦争の影響はウクライナ東部最前線に留まらず全土に及ぶ。供給網の破綻は心血管疾患、糖尿病、癌治療に影響している。また WHO は水供給、健康福祉インフラ、不十分なワクチン、密集によるハシカ、COVID-19、その他呼吸疾患の流行を懸念している。

新生児がシェルター避難後、家族と移動中に肺炎で死亡した例もある。21 世紀に赤ん坊が肺炎で死亡しているのである。Kiev から西部 Lviv へ長時間の満員列車移動で肺塞栓により死亡した成人もいた。心筋梗塞を胸痛で発症して 3 日間受診できなかった者もいる。
てんかんの小児もシェルターにいて抗てんかん薬にアクセスできない。
冠動脈のバルーンによる拡張はできてもステントが無いが、やらないよりはましである。

Lviv 市内でもガソリン不足、移動の心配でケアが遅れている。
癌患者も予定手術を 1 カ月以上遅らせている。Lviv 市内では戦闘はないが 1 日に数回、空襲警報が鳴りその度に患者をシェルターに移動させている。
Zayachkivska は Kiev から親戚と彼女の二人の娘と車で避難した。
運転免許を取ったばかりの 19 歳の娘が 20 時間かけて運転した。
スロバキア政府はウクライナからの避難民に対し下記のように「We will take care of you」と太い活字で表明している。

<https://ua.gov.sk/en.html>

(Information for Ukrainians entering Slovak republic)

また北米ウクライナ医学協会には 500 名の会員がいるがバルチック諸国をベースとして遠隔医療 (telemedicine) でシェルターの患者の相談に応じ、また医師の過剰労働をサポートしている。

<https://umana.org/>

(UMANA : Ukrainian Medical Association of North America)

年 2 回 (6 月、12 月) 刊行のウクライナ最古 (1898 年) の下記医学雑誌の次回号の特集は「The Role and Place of Damage Control Surgery in Military Medical Evacuation Doctrine During Hostilities in Modern War」である。

<https://mspsss.org.ua/index.php/journal/issue/view/44>

(Medical Sciences: Proceedings of the Shevchenko Scientific Society)